

湖東地区第3次まちづくり計画

あえるまち 湖東を めざして

2024年4月

湖東地区まちづくり協議会



湖東地区の天然記念物
八十ノ木の妖精



まちづくり計画とは

「湖東地区まちづくり協議会が発足して2年後の2006年に、第1次まちづくり計画（以下計画）が策定された。そして2018年には、第2次計画として改定された。

計画には、まちづくりの基本方針や施策が書きこまれている。まちづくり協議会や関連団体と力を合わせて、わたしたちはさまざまな施策を実現させていくことになる。

今回の第3次計画は、できるだけたくさんの人に目を通してもらえることを目的にした。少ないページで、イラストを多く入れて読みやすさをめざした。また、たくさんの人に理解してもらえるようなやさしい表現を心がけた。

今回は、2024年から2028年までの5か年計画となる。

まちづくり計画は
5か年計画で
実施されていくよ！



湖東地区を取り巻く情勢の変化

これまでの計画では、事前に多くの住民から意見を聴き、話しあいを重ねてつくられた。そこに書きこまれた施策にもとづいて、さまざまな事業がおこなわれてきた。

これまで行ってきた主な事業

01 福祉

福祉では、健康づくり・生活相談や交流の場としての「いこいこ広場」がつけられた。



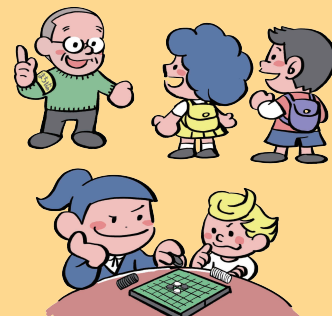
02 防災

防災では、災害への備えを強化するための「防災ネットワーク」が立ち上げられた。



03 子育て

子育てでは、子どもたちが地域でのびのび集える体験事業や居場所づくりがおこなわれた。

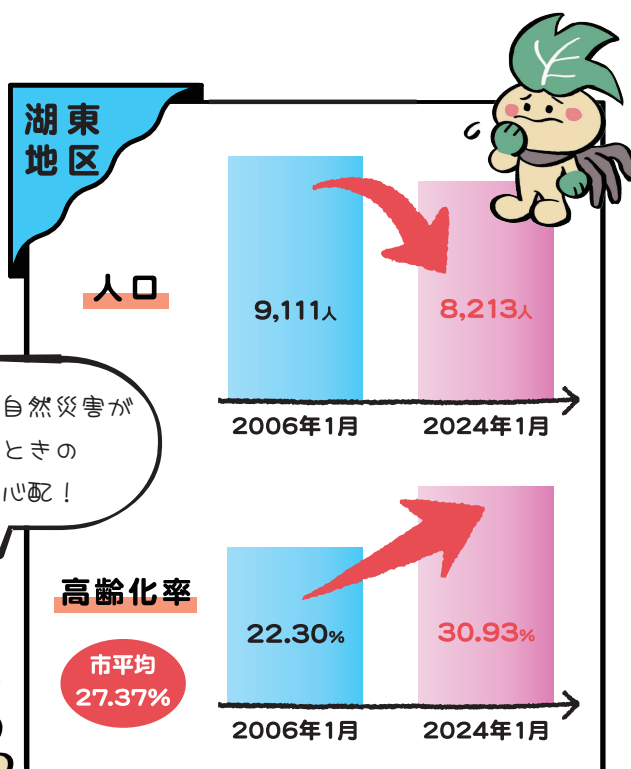


他にも、ほとんどの施策において一定の進展は見られたが、課題の解決には、「これで十分」というゴールがない。したがって、すべての施策は、引きつづき取り組んでいくことになる。

しかし近年、大きな変化が押し寄せている。合併して東近江市になってから20年の間に、この地区の人口は1,000人ほど減り、高齢化率も市の平均を上回る30%超まで上がった。人口減少と少子高齢化は今後さらに進んでいくと見られ、人と人のつながりやコミュニティが弱くなっていくと心配される。とくにコロナ禍以降に、その傾向が大きくなった。

また、気候変動により自然災害が増え、防災の点からもコミュニティの重要度が高まり、つながりの大切さがあらためてクローズアップされるようになった。

気候変動や自然災害が増えたときの防災が心配！



わたしたちの地区には由緒ある歴史と豊かな自然があり、それらに育まれた《人》にはたくさんの素晴らしさがある。地域の事業に積極的に参加する人の多さは、郷土を大切にする心の表れといえる。まちづくりで何よりも大事な《人》に恵まれているのが、湖東の良いところだ。

今回の改定では、**《人》や《つながり》を大切にする湖東の良さを生かせる計画にする。**

計画の理念 = “あえるまち” 湖東

「みんなが幸せを感じられる地域にする」というのが、まちづくりの目標である。つながりが弱くなっていく現代社会で、大きな課題である“孤立”を無くしていくため、第3次計画では、“あえる”をキーワードとすることにした。

“あえる”には、「会える」「逢える」「合える」「和える」などの字がある。それらすべての意味をかねそなえた“あえるまち”湖東をめざしていく。

人と人がつながるには、まず「出あえる」ことが必要となる。出あって「知りあえる」ことで「つながりあえる」「認めあえる」。そうならば「たすけあえる」「ささえあえる」こともできる。考えかたがちがっても、「高めあえる」「みがきあえる」関係になれば、つながっていくことができるだろう。

このように、**湖東を“あえる”まちにすることで、みんなが幸せを感じられる地域にしていくのが、本計画の理念**である。



人やつながりを大切にする湖東の良さを生かせる計画に！

わたしたちのめざすまちづくり

“あえるまち”湖東のまちづくりでは、「地域でできること」をしていくことになる。自分たちで解決できることから始める、というスタンスでのぞんでいく。

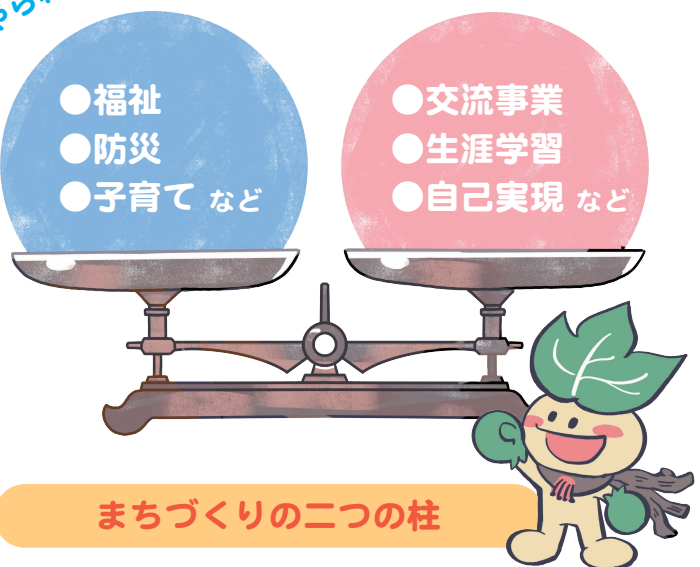
まちづくりの事業には、「やらねばならないこと」と「やりたいこと」がある。前者は福祉・防災にかかわることや、課題解決に関することなどで、後者は活性化をめざしたイベントなどがあげられる。これまでの計画では、「やらねばならないこと」の施策に重点が置かれていた。しかし、実際の活動では、課題解決の活動もしっかりされているものの、イベントのほうが目に見えるように、「やりたいこと」が中心となっている印象をもたれがちだった。

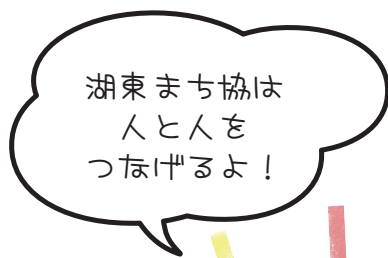
やらねばならないこと

- 福祉
- 防災
- 子育て など

やりたいこと

- 交流事業
- 生涯学習
- 自己実現 など





今回の計画では、両者のバランスがとれることをめざす。

「やりたいこと」は必ずしもイベントとはかぎらない。たとえ個人的な想いが出発点であっても、それが地域のためになり、課題解決に役立つのであれば、まちづくりの1つの柱になる。

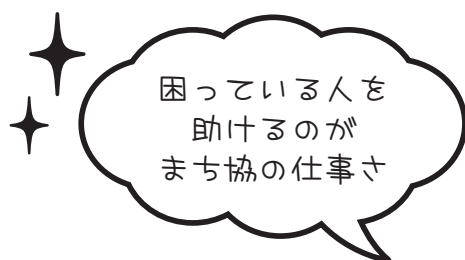
そのとき中心となるのは、「やりたいこと（やってほしいこと）がある人」「想いを持った人」だ。どれほど理想をかかげても、実行する人がいなければ絵に描いたモチになってしまう。まちづくりで重要なのは、その人の“想い”を、みんなで応援していける仕組みづくりである。

“想い”があっても、1人では実現がむずかしい。「自分だけではどうにもならない」とあきらめていることも多いのではないか。「やりたいこと」を心のなかで想っているだけでは、応援してくれる人たちとつながれない。

まずは、“想い”を知ってもらうことだ。そうすれば、「いっしょにやってくれる人」とつながれるかもしれない。そのためには、さまざまな人と「出あえる」「知りあえる」「語りあえる」場が必要になる。仲間ができれば、実現に向けて動きだす。同じ想いを持った仲間が動けば、すでにある団体もたすけることができる。

同じように、「こういうことで困っている」「たすけてほしい」という想いや声を聴ければ、同じプロセスをたどって「やらねばならないこと」も動きだすはずだ。そうなれば、「やらねばならないこと」と「やりたいこと」のバランスもとれ、効果的な活動ができる。

以上のように、**さまざまな「想いを持った人」「たすけを必要とする人」の想いをくみ取り、みんなでたすけていけるようにする**のが、この計画のめざすところである。



～湖東まちづくり協議会の役割～

これがやりたいを実現できる仕組みづくり

やりたいこと



ちょっと
待って!



実現!!

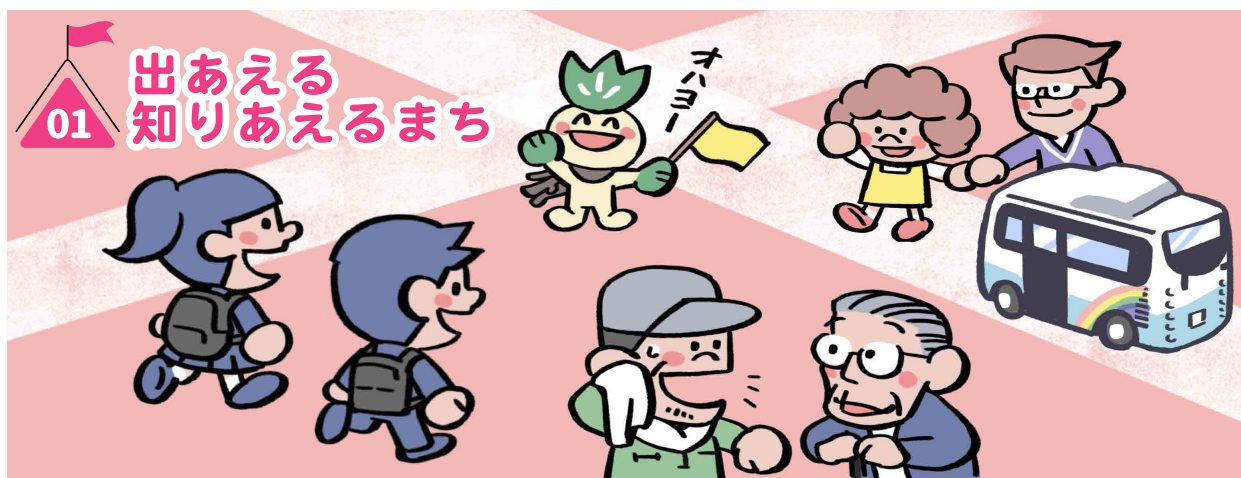


いろんな“あえる”にあいに行こう



“あえるまち”湖東の基本は、まずあいさつから。あいさつ(挨拶)の語源は、「自分の心を開いて、相手の心に近づいていく」という意味。だれもが気軽にあいさつしあえるまちであることが、まちづくりのスタートである。

●あいさつ運動をひろげていく。みんなであいさつをかわしあおう。



課題

コロナ禍になってから、みんなが集まり交流する機会が減った…
子育て世代が気軽に交流できる場がない…
講座やサークル活動に参加する男性が少ない…



今ある機会と場を活用していく



コミュニティセンター(コミセン) ひばり公園 旧歴史民俗資料館 泰山閣 図書館 子育て支援センター 中学校の体育館 探検の殿堂 ヘムスロイド村 いこいこ広場 まつりや婚活などのイベント 講座 サークル etc.



コミュニティセンター



ひばり公園



湖東図書館

ほかにも
たくさん
の施設
があるよ



- こういう場があることを、もっと知ってもらう。さまざまなツールを使って情報発信する。
(例：広報誌、SNS、ケーブルテレビなど)
- いこいこ広場やイベントを、さらに多くのさまざまな人に気軽に集ってもらえる内容にする。
- 男性や中学生の参加できる講座を企画する。(例：男性料理教室、囲碁教室、e スポーツなど)
- 集めるためのイベントではなく、交流を目的とした企画にする。

機会と場をみんなで新しく作っていこう

新しい場
を作ろう

いこいの森（仮称）
コミュニティ・カフェ

- コミセン周辺の雑木林を、こどもたちの遊び場や住民の交流の場にできるよう整備する。(いこいの森)
- 子育て支援の拠点をつくる。
- 身近なところにみんなが集まれる場をつくっていこう。
(例：茶話会、カラオケなど)
- 自治会の公民館に開放日を作ることを検討しよう。
- 空家の活用を考えていこう。
(例：コミュニティ・カフェなど)
- 年齢や地域を超えたつながりの場づくりをする。
(例：趣味のサークルなど)

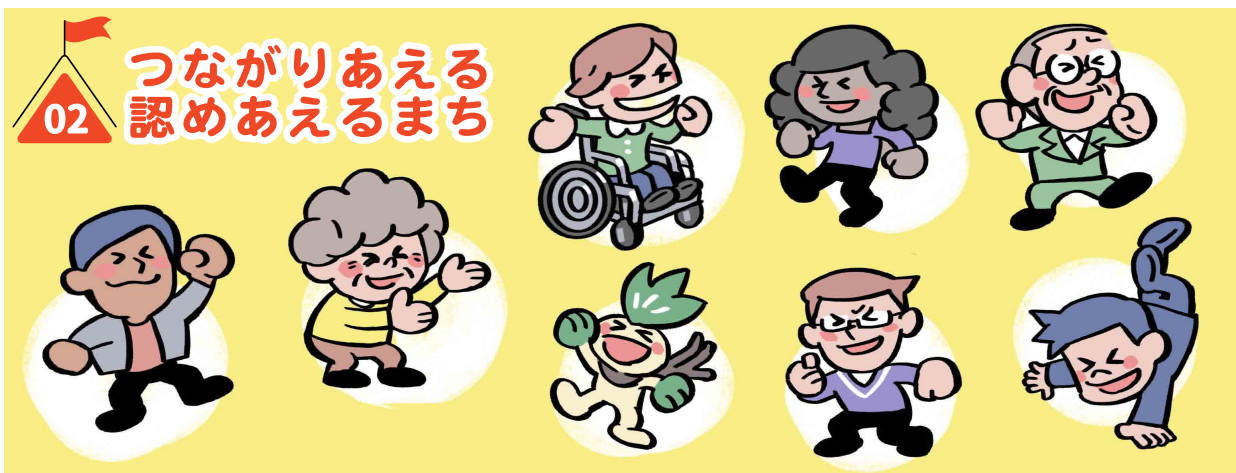


課題

交流の場へ行きたくても、車がないと行けない…
公共交通機関がとぼしく、ちょこっとバスやタクシーの
使いかたもわからない…



- 民生委員の研修などで、ちょこっとタクシーやまちバスの使いかたを教える。
今ある交通手段を持続させるためにも、みんなで積極的に乗っていこう。
- 高齢化が進んで車を運転できない人が増えることから、利用しやすい公共交通のシステムを
「これからの交通を考えるプロジェクト」で話しあう。



課題

「やりたいこと」「たすけてほしいこと」を伝えられない…
“夢”をどうすれば実現できるかわからない…



“想い”を伝えられる機会や場をつくる

どんな
機会や場？

いこいこ広場 まちのわ会議
サロン ワールドカフェ etc.

- まちづくり活動の拠点であるコミセンで、“想い”や“夢”を気楽に発表できる機会をつくる。

(例：未来への主張大会など)

- コミセン以外にも、自由に語りあえる小さな場を、いくつかつくる。

(例：出張ワールドカフェなど)

- 女性や子どもの意見を聴く場をつくる。

(例：参加者別のワールドカフェなど)

- だれもが自由に提案できる仕組みをつくる。

(例：投書サイトなど)

- ポスターなどで情報発信できる掲示板をコミセンにつくる。



ワールドカフェ イメージ図

“困りごと”の相談に応じられる仕組みをつくる

- 気軽に相談できる場（いこいこ広場、子育て支援センターなど）を、広く知らせる。
- プライバシー保護を徹底し、安心して相談できる受付にする。
- 相談受付の時間を増やす。
- 対応ができる専門家（機関）に、すみやかにつなぐ。
- 課題と対策を話しあう会議を開く。（例：まちのわ会議など）



子どもたちが すこやかに育つように

- 学校との協力関係を深める。
- 体験事業をおこなう。
（例：通学合宿、講演会、見学会、地域
の人が指導する体験会など）
- 自治会などの行事にかかわってもらう。



課題

めまぐるしく変化する現代社会では、新しい価値観や文化が生まれている。国外をふくむ地区外から来て暮らす人も増えてきて、これまで当たり前だったことが通用しない……



人権や多様性を尊重する

- これまでの湖東地区の文化や価値観を大切にしつつも、異なる価値観も理解するようにしよう。
- 地区や自治会での人権講座をすすめていき、人権への理解を深めよう。
- だれもが尊重され、居場所のあるまちにしよう。





課題

やりたいことがあっても、仲間や資金を集められない…
得意なことをどうやって活かせるかわからない…
リーダーがいない…

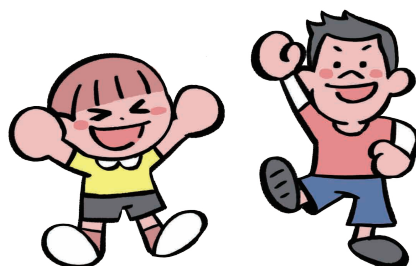


- “想い”や“夢”の実現に必要な人手や資金を、まちづくり協議会が支援する。
- いこいこ広場にボランティアセンターをつくり、希望者を登録する。
その人を、力が発揮できる場につないでいく。
- まちづくり協議会がかかわる事業やイベントの手助けを、内外に広く求める。
- 各種の団体同士での協働（共催）を進めていく。



リーダーが育つために

- 良いと思うことは、とにかくやってみる。
やってみてから、直すべきところは直す。
- 失敗をしても何度でもチャレンジできる文化をつくる。





課題

大きな災害の発生時、自力避難ができない世帯がある…
 自治会（自主防災組織）単位では、災害へのそなえや
 対応ができない…
 持病があったり、たすけが必要な人に、避難所で
 対応できない…



防災のために
 何がある？

- 自主防災組織 湖東地区防災ネットワーク 防災倉庫 etc.
- 自治会で、避難のたすけがいる世帯を知って、「個別避難計画」の作成を進める。
- 同じ避難所をつかう自治会同士で、合同で訓練や勉強会をおこなう。
- 防災倉庫を、災害へのそなえに必要な資機材の備蓄に活用しよう。
- 福祉施設（福祉避難所）とのつながりを進める。



課題

少子高齢化や人口減少のため、自治会の運営が
 むずかしい…
 自治会長や役員になる人の負担が大きく、
 仕事との両立がむずかしい…



- 自治会の意見をきく場をもうける。
- 今後の自治会のあり方や役割についての検討会や勉強会をおこなおう。
- 役の見直し、行事の手間を少なくする、書類仕事のデジタル化などを進めよう。
- 女性や若い世代もいっしょに参加できる態勢をつくろう。



課題

高齢化や、あと継ぎがないせいで、農業が
 つづけられない…
 使われずに草だらけの田畑が増えている…



- 農業をしているひとがつながれる機会をつくる。情報発信をする。
- 農業をしたいひとの掘り起こしや、地区外からの人もふくめた幅広い人材を集める。
- 農業したいひとを応援するための場をつくる。
- 付加価値をつけて、収入を増やす工夫をしよう。（例：有機栽培などによるブランド化）



さまざまな人が出あい、つながりあい、ささえあい、認めあうことで、個性と多様性を活かしたまちづくりをめざす。みんなの力で、みんなが幸せを感じて暮らせる未来をつくっていこう。

健康で暮らせるために

- 気軽に好きなスポーツができる環境をつくる。(例：健康夢クラブ、スポーツ少年団など)
- 健康体操を広める。(例：いこいこ広場、出張まちカフェ、あったかサロンなど)

文化や趣味を楽しむために

- 同じ趣味をもつ人が集り、好きなことを高めあえるようにしよう。(例：サークル活動など)
- 生涯にわたって学べる環境をととのえよう。(例：プラチナ教室など)
- 湖東地区をはじめとした歴史や文化を調べて伝えよう。(例：歴史文化プロジェクト)
- 文化や芸術を盛んにしよう。(例：ヘムスロイド村、ワークショップ、文化サークルなど)



新しい生きがいや幸せを生み出すために

- 新しいことに挑戦できる風土をつくろう。(西堀榮三郎の「やってみなはれ」精神)
- 新しいことへの挑戦を、みんなで応援し、評価していこう。
- 時代や状況の変化にも、柔軟に対応していこう。
- まちの明るい未来を語りあおう。(例：まちのわ会議、ワールドカフェなど)

わたしたちのまちをつくるのはわたしたち

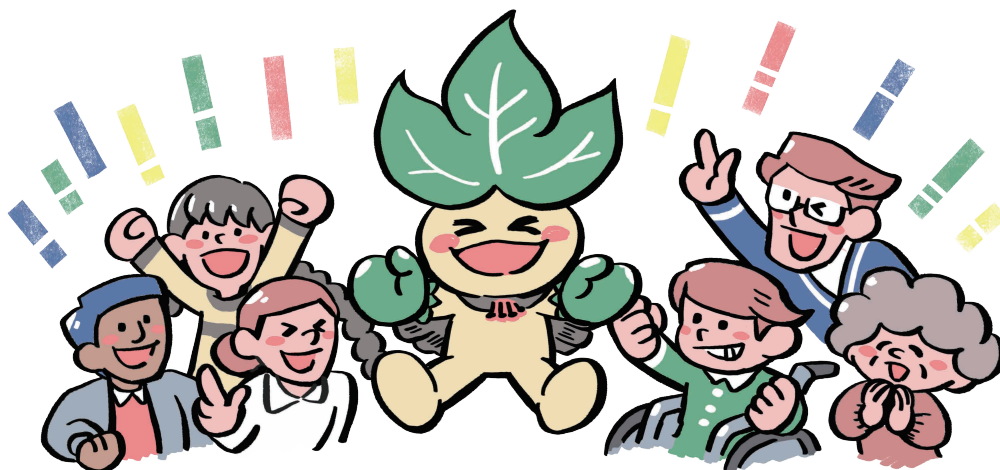
以上のように、わたしたちは“あえるまち”の施策を進めていく。個々の価値観を尊重しながら、“想い”や“やりたいこと”をもった人を、まちづくり協議会や関連団体が、いっしょになってたすけていくことになる。

どれだけすぐれた計画でも、実現するには人がいる。“困りごと”などの課題に対応するにも、それをやる人が必要だ。そんな人が出てくることに、本計画の成功はかかっている。

“やりたいこと”と“やらねばならないこと”のバランスをとるのは難しい。“やりたいこと”にかたよってしまう恐れはある。それを乗り越えるために必要なのは、やはり《人》なのである。

本計画は、基本的にまちづくり協議会や関連団体の指針となっているが、まちづくりを進めるのは、わたしたちひとりひとりの手にかかっている。だれかにまかせるのではなく、自分にできることを考え、無理のない範囲で行動していく。だれかの“想い”に共感するのであれば、それをたすけたり応援するのも、大切な行動になる。

たくさんの人が行動して、“想い”をかなえられれば、「みんなが幸せを感じられる地域にする」というまちづくりの目的もかなえられるだろう。失敗があっても、前向きに挑戦をつづけていけば、《新しい価値》も創造できる。本計画の理念が実現すれば、社会情勢の変化にも対応した住みやすいまち、“**あえる**”が**あふれるまち湖東**になるにちがいない。



編集：湖東地区まちづくり計画改定ワーキンググループ

青西直美 太田章一郎 久保文裕

小島秋彦 小島善雄 小林泉

竹内清臣 福田純子 山本園子

イラスト：小林亜美（探検家アミ）

レイアウト・印刷：RINRIE デザイン

